

1 A 分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

「地域とともにある学校」づくりにおける教頭の役割について

提言者 東児湯支会 木城町立木城小学校 押川志保

1 主題設定の理由

新学習指導要領においては「社会に開かれた教育課程」の理念が提示され、教育課程の編成に際し、保護者・地域との連携・協働をさらに強固なものとし、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域や保護者と共有し地域と一体となって子どもたちを育てる「地域とともにある学校」づくりを推進していく必要がある。また、本校の教育目標である『ふるさと木城を愛し 目標をもって主体的に学び 思いやりとやさしさのある 心身共にたくましい 児童生徒を地域と共に育成する』の具現化と、次年度に迫る義務教育学校の開校に向けたグランド・デザインに基づいた諸準備も急務である。そこで、「地域とともにある学校」づくりを推進する上での教頭の果たすべき役割を明確にし、教育活動の充実に資するため本主題を設定した。

2 研究のねらい

「地域とともにある学校」づくりを実現するための本校の取組を整理し、教頭の役割について明らかにする。

3 研究の概要と成果

(1) 本校の取組

① 学校運営協議会の改善と地域学校協働本部の設置

本町では、昨年度より学校運営協議会が、本年度より地域学校協働本部が設置された。学校運営協議会においては昨年度生じたいくつかの課題の解決を図るため今年度は以下3つの改善策を講じた。

ア 部会方式の導入

幅広い学校運営上の課題について、少人数で集中し効率的な協議ができるよう、部会方式を導入した。「知」・「徳」・「体」の3つの部会に分けたことで、より具体的な協議を行うことができ、課題や必要な取組が焦点化された。

イ 全体計画の変更

昨年度は、学校経営説明の全体会、小・中それぞれの授業参観、評価のための全

体会、と委員は決められた日に4回集まるという計画であった。今年度は4回の授業参観は自分の所属する部会に関わる行事等を自分で決めて自由に参観する形とした。希望に応じて2回以上の参観も可能としている。各行事の案内については、委員の方々にメール登録をお願いし、校内で活用しているメール配信システムを利用し行事案内を配信するようにした。

また、昨年の学校評価は、保護者と児童の評価を基に教職員が自己評価を行い、それを運営協議会委員に説明・提示し評価をしてもらうことで学校評価としていた。しかし、従来の学校関係者評価委員会での評価との差異がなく、委員がともに学校運営に参画する意識の高まりも期待できない。そこで評価項目や内容も見直し、保護者・教職員・学校運営協議会委員がともに当事者意識をもった評価を行うことで、それらを総合して学校評価とするように準備を進めている。

ウ コミュニティスクールと地域学校協働本部の取組

義務教育学校開校後に取壊される現校舎を町の花であるコスモスで飾り恩返しをしたいとの声が中学3年生より上がった。これをきっかけに地域学校協働本部が子どもと地域住民と一緒にコスモスを育てる「コスモス大作戦」を実施した。育てたコスモスの花は校舎だけでなく各自治公民館にも届けられた。

③ 目的や目標の共有化

地域とともにある学校をつくる上で、地域との目的や目標の共有化は必須である。めざす学校像をベースに、目指す子ども像・教職員像・家庭像・地域像を策定した。子ども像・教職員像については夏の職員研修において職員間で検討を行った。家庭像については、6月の参観日に校長より保護者説明を行い、アンケートを実施し、広く意見をいただいた。地域像については地域学校

協働本部において検討を行っている。

③ 学校・家庭・地域が連携・協働する具体的な取組

本校では地域と連携した活動を取り入れた特色ある学校づくりとして以下のような取組みを行った。

ア ふるさと学習

本校では、1～2年生の生活科、3年生以上の総合的な学習の時間にふるさと木城について学ぶ「ふるさと学習」に取り組んでいる。「ふるさと学習」では地域の方々に講師に迎え地域の特色やよさを体験を通して学んでいる。また、町の補助を得て、バスを利用し、実際に現地を訪れて学ぶ機会を設定している。

イ 地域参加型参観日の実施

11月12日(土)に2学期の学校参観日と、町教育課主催で別に開催されてきた「生涯学習のつどい」と同日開催とし、地域の社会教育と一体化した学びの場となった。

参観授業では、地域の方に講師になっていただいたり、授業を一緒に受けていただいたりして全ての授業において地域参加型の授業を実施した。多くの保護者の方や地域の方々に授業に参加して頂き、大人から子どもまで学び合う木城ならではの教育活動を行うことができた。

ウ 避難訓練への協力

本年度、風水害時の保護者への児童引き渡しを想定した避難訓練において、民生児童委員の方々に参加して頂き、車両や保護者・児童の誘導の役割を担って頂いた。初めて一緒に行った訓練で、今後非常時の体制づくりにも有効な貴重な意見をいただくことができた。

(2) 教頭の役割

上記で述べたような取組を円滑に運営するため教頭の役割は以下のようなものとなる。

① 各関係機関との連絡調整

各学年の取組において、講師招聘や現地見学等を行う際、地域コーディネーターと連携し各関係機関と日程や活動内容等の確認や連絡、打合せを行う。

② カリキュラムマネジメント

9年間の義務教育の全体像を把握し、教育目標や資質能力を共有し教育課程の編制を行う。また年間指導計画に基づき教職員が主体となった活動の展開ができるよう指導や助言を行う。その際9年間の一貫した学びとなっているか、育てたい資質・能力に合致した活動であるか、学校全体の行事とのバランスが取れているか、という事を視点としてカリキュラムマネジメントを進めてきた。

③ 地域への情報発信・情報収集

学校だよりやホームページで地域と連携した取組の活動の様子を発信している。保護者や地域に対して連携や協働の意義、教育目標と関連などが伝わるメッセージ性のある情報発信であるように心がけた。

地域の情報やお知らせ、過去の取組の事例なども職員に適時紹介している。

(3) 研究の成果

① 学校運営協議会の改善を図ることで委員のより当事者意識をもった学校運営への参画を進めることができた。

② コミュニティースクールのかかわりの中で「学校の願い」「地域の願い」「保護者の願い」「子どもの願い」のそれぞれを取り入れた教育課程を実施し、活動の意義をより深めることができた。

③ 地域人材を活用した授業を企画・実施することで、学校運営協議会委員を中心とした「地域とともにある学校」づくりを推進することができた。

4 今後の課題

今年度の取組を生かし、次年度以降の発展的な継続を図るため、次のようなことが今後の課題として考えられる。

- ・ 今年度の実践例や反省を共有し、地域のつながりの密度と質を高めた系統的な学習になるよう資質・能力ベースでのカリキュラムの見直し。
- ・ 学校運営協議会委員がより積極的に学校運営に参画できる活動内容の見直しや工夫。
- ・ 地域への情報発信だけではなく、地域からの情報、思いや願いを収集するシステムの構築。